

牛久：学校周辺に見る自然

第48号 中根小、ひたち野うしく小

2010年11月10日発行

＜秋の水辺公園5 ～ 虫たちも冬越しの準備・チョウの仲間＞

水辺公園観察パート5。植物は種子散布や、冬芽の充実、落葉などで厳しい冬の寒さや乾燥を乗り越える準備をしていましたが、動物たちもまた冬越しの準備をしています。コタツで丸まることのできない彼らはいったいどうやって寒い冬を乗り越えていくのでしょうか？

例えばチョウの仲間は卵から幼虫、さなぎ、成虫へと成長していきませんが、どの段階で冬を越すと思いますか？ 種類によっていろいろですが幼虫で冬を越すものが一番多く、続いてさなぎ、卵となっていて、成虫で越冬するものは少ないようです。観察当日は寒かったせいakaあまりチョウを見かけなかったので、下見の10/27に見られたものから紹介しましょう。

1. シジミチョウの仲間



①ヤマトシジミとその交尾こうび（幼虫で越冬）



②ウラナミシジミ
（幼虫またはさなぎ
で越冬
：第40号で紹介）



③ウラギンシジミ（成虫で越冬）

2. モンシロチョウの仲間



①モンキチョウ（幼虫で越冬）

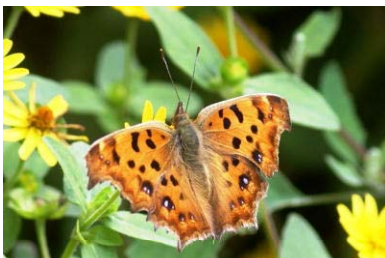
さなぎや成虫で越冬するものが多いようです。この辺ではさなぎ越冬のモンシロチョウも南の方では幼虫越冬することもあるそうです。



②キチョウ（成虫で越冬）

左のモンキチョウの写真は白い雌が黄色の雄を追いかけているように見えますが、実は雄が雌の行く手をさえぎって、求愛きゅうあいしているのだそうです。

3. タテハチョウの仲間



①キタテハ（成虫で越冬）



②アカタテハ（成虫で越冬）

幼虫で越冬するものが多いようですが、これらはともに成虫越冬。その他、アゲハチョウの仲間の大部分はさなぎで、セセリチョウの仲間の大部分は幼虫で越冬するそうです。【理科支援員・宮内】